

## 豊中歴史同好会の講演会で感動した話

(会員) 阪口 孝男

これは、平成二十二年六月一三日の石野博信先生の講座『四世紀末 五世紀初の大和と河内』の講義中での感動場面の紹介です。

この日、石野先生の話が「日本列島の大型古墳の動向」に進んで、佐紀楯列古墳群・市庭古墳の前方部、削平の段に及んだ時、突然、「話は脇道に逸れますが、この古墳に關して忘れることが出来ないエピソードがありますので是非、ご紹介したい」と、先生が次の様なお話をされたのです。

それは、「今から三〇年位前に、奈良明日香地域を保存する為の特別立法が国会で審議されていた時に、檀原考古学研究所長であられた故末永雅雄先生が、学識経験者の代表として、衆議院建設委員会に参考人として招請され、私も先生の鞆持ちとしてお伴し、委員会室内に控えておりました。

その日、色々な質疑応答の中で、政府与党側の某議員が、末永先生に対して、

“奈良時代に平城京造営の際に、市庭古墳(後述)や他の古墳を潰したようですが、これについて先生はどの様に思われますか”と質問したのです。

一瞬、会場は静まり返り、張り詰めた空気が流れました。

この与党議員の質問の趣旨は、明らかに古代にも開発の為に文化財を潰しているのだから現在でもやむを得ないのではないか、という点にあったと思われる。

私は先生がどの様な答弁をされるのか、高なる胸を抑えながら見守る中、末永先生は平然と、

“確かにその通りです。平城京造営長官に成り代わりお詫び致します”

と誰もが予想もしなかった、答弁をされたのには驚嘆しました。

お蔭で審議会場は俄かに和み、一同の笑いが零れる裡に審議は無事終わりました。

今、市庭古墳の事をお話しながら、あの

時、末永先生の巧まらずして発せられた、一言に、末永先生の文化財保護に対する強固な信念に、改めて尊敬の念を深くした情景が思い出され大変懐かしく思いました”

石野先生は、静かな口調で淡々と話されましたが、先生の表情には亡き恩師に対する畏敬の念が充ち溢れ、目の奥に何か光つたものが感じられて、私は、この清々しい様子に言い知れぬ感動を覚えた次第です。

備考・市庭古墳(奈良市佐紀町塚本・市庭)

・本来の墳丘長二五三メートル、前方部幅一六四

メートル、後円部径一四七メートル、

後円部高さ一三メートル、

・築造時期は古墳時代中期(五世紀前半)

・現在の宮内庁治定の平城天皇陵

この話を或る日、檀原考古学研究所で尋ねた処、社団法人・檀原考古学協会発行の『末永雅雄が語る大和発掘ものがたり』にも収録されています、との事でした。

石野先生の、この素晴らしいお話は、是非『つどい』に残して頂きたいと、投稿した次第です。